

悠游たより 心游たより

第222号
令和3年
3月

発行 新居浜生涯学習大学
〒792-0023
新居浜市繁本町 8-65
電話・FAX(0897) 33-2991
E-Mail:n-daigaku@city.niihama.lg.jp



令和3年度

新居浜生涯学習大学

受講生募集!!

新しい学び つながる仲間

学びあうことによって交流を深め、よい未来を創っていきましょう

～受付期間～

★[市政だより3月号]
に掲載しております。

3月1日(月)～3月22日(月)



詳しくは、「講座案内」の
冊子をご覧ください!

* 申込用紙【募集案内】の冊子、(最終ページ)に、
必要事項を記入の上【受付場所】へご提出ください。
(メール・FAX・郵送での申し込みは、生涯学習大学
へ直接お送りください。)

* 申込多数の場合は、抽選となります。

【受付場所】

- * 生涯学習センター
- * 高齢者生きがい創造学園
- * 新居浜市役所(5階社会教育課)
- * 各支所
- * 市内各公民館・各交流センター

※冊子は、各公共施設等に置いています。



Hello!
NEW

新居浜

QRコードを読み取って、
クリックして下さい♪

メール

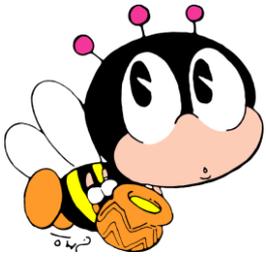


HP



皆様のご応募心より
お待ちしております♪





令和3年度 生涯学習大学

3つのチャレンジ！



今年のキャッチフレーズは「**たのしい学び ひろがる出会い**」

令和2年度は新型コロナウイルス禍の中にも関わらず、受講生の皆様のご協力で、歌唱や実技を伴う一部の講座を除き、9月以降にほぼ予定していた講座を開催することができました。改めて、コロナウイルス対応にご協力いただいた皆さんに感謝申し上げます。まだ新型コロナの終息は見通せず影響は続くと思いますが、そんな時だからこそ、みんなが幸せを実感できる学び舎を一緒に創ってまいりましょう。

新年度の生涯学習大学では『3つのチャレンジ』を掲げています。

一つ目は、ICTなど「**新しい手法の学び**」へのチャレンジです。

新型コロナウイルスは、生涯学習にとっては泰平の眠りを覚ます“黒船”だったのかもしれませんが。これまでは「人が集まる」ことが生涯学習の大前提でしたが、そこに風穴を開けたのがコロナへの対策であり、この一年間で私たちはピンチこそが最大のチャンスということを学んだ気がしています。

感染のリスクを回避する手段として「リモート講座」が生まれました。先頭を切って取り組んでくれたのは「日本文学講座」でした。3人の講師が自宅や大学から講義を配信し、防災センターで共同視聴し、中には自宅で受講する方も生まれました。今後は、対面のリアルな感覚を大事にした上で、本来生涯学習が掲げていた理念である「いつでも、どこでも、だれでも」学ぶことができるようハイブリット型で、リモートやインターネット配信の講座にも積極的に取り組んでいきたいと思っています。

おそらく新年度も大学との連携事業では、新型コロナの状況に応じてリモートでの対応があると思いますし、「新・雑談しま専科」では、最初にZoomの研修を行い、事前に配信講座を見た上で、みんなが集まって雑談を交わす、新しいスタイルの対話型の講座を開催する予定です。ICTはハードルが高いと思う方も多いですが、ぜひ一緒に挑戦してみましょ。きっと想像したより簡単で、楽しい世界が広がるはずですよ。



二つ目は、「**学びの多様性**」へのチャレンジです。

これまで、生涯学習大学は昼間の講座が多く、働いている人は参加したくてもできない状況でした。夜間や、土曜日の講座を増やし、新しい参加者を開拓していきます。また、子ども達をターゲットにした「今までやったことない！ワクワク教室」では、学校ではなかなか体験できなかった活動を小学生に提供します。子ども達にも生涯学習に参加できる門戸を広げたいと考えています。

そして、「学んでマナビイ」の拡充です。この講座の目的は、様々な学びへのきっかけづくり、いわば「お試し講座」です。ここで一度体験して楽しければ、様々な場所で行われているグループサークル活動や講座に繋げていけるようになれば理想的です。去年の10講義から18講義にプログラムに拡大しましたが、年度の途中にも新たなテーマが見つければ、随時追加募集したいと考えています。受講生の皆さんからも楽しいアイデアを募集していますので是非ご提案ください。

三つ目は、「**対話を通じた探究型の学び**」へのチャレンジです。

今年度の講座には、具体的な内容を敢えて煮詰めずに、みんなと一緒に創る余白を設けている講座がいくつかあります。「おとなの社会科」では最初にどこを見学するか、みんなで話し合っ決めてにしています。皆さんの人生経験を出し合っ、見学先を決定し、時には自分が働いた会社をについてコーディネート役を担ってもらえたらとも考えています。それ以外にも「環境問題を考えよう」では、最初にみんなで話し合っ、環境についての課題を熟議し、その解決に向けて話し合っの中で学習を深め、最終的には意見提案に繋げる予定です。「今までやったことない！ワクワク教室」では、異年齢の子ども達が対話や体験の中で、力を合わせ一緒に創り上げていく、学校とは違う「主体的で、対話的な、深い学び」を体験してもらいたいと考えています。

いつの間にか『人生百年時代』といわれるようになりました。SDGs（持続可能な開発目標）の達成という言葉もテレビの画面を賑わすようになってきました。急激に社会が変化していく中で、その流れに取り残されないようにするためにも、生涯学習は大切だと考えています。常に学ぶ姿勢を持って、知的好奇心旺盛に取り組んでいる皆さんの姿を見るにつけ、人生百年時代を生き抜くためには、「何かいいことないかな」とアンテナを高く掲げ、決して孤立することなく、誰かとつながりながら学び続けることが最高の処方箋だと感じます。皆さんと共に、子どもから高齢者まで様々な世代の学び場となるよう「生涯学習大学」も変化に適応し、脱皮を繰り返していきたいと思っています。

新年度の28講座の募集が3月1日(月)から22日(月)までの期間で行われますが、今回も市民スタッフの「まナビすと」の活躍で充実したプログラムになっていると思っています。募集案内をご覧いただき、興味関心を持たれた講座があればぜひ受講して下さい。お友達にもお声掛けいただければ幸いです。

新型コロナウイルスという霧が晴れ、以前のように皆さんの笑顔と元気な声があふれる日が一刻も早く訪れることを願うばかりです。令和3年度もどうかよろしくお願いたします。



「興味があればやってみよう、
時間は取り戻せない」

私の生涯学習

No.7



須賀 康美

■平成29年度～現在、生涯学習大学のまなびすと(スタッフ)をしていただいております。

ある時、家内から「退職後に備え、生涯学習大学の講座を何か受けたら？」と言われ、平成22年度の『感動！別子山講座』を初めて受講しました。昭和63年に新居浜に来てから数えきれない程 別子山村へ行きましたが、別子山村について何も知らないのではこの際と思ったからです。この講座で初めて劇場跡を越え、銅山越えまで行きました。その後は、自他ともに認めるアウトドア派なものですから仕事の傍ら生涯学習大学とは別の主に自然系の講座やイベントに参加していました。

平成25年には退職するので「腰を据えて講座を」と見たパンフレットで 悠游ワーカー向けの特別講座がありました。本来の趣旨からは逸脱でしょうがチャレンジ精神は結構旺盛なので悠游ワーカーの資格を目標に講座(勿論少しでも興味のある)の受講を始めました。平成28年度で自身の目標は達成しましたが、翌年から特別講座は無くなっていました。

この間に受講した講座の中で『別子銅山』に魅せられ、主催がどこであれ、座学・現地を問わず可能な限り別子銅山関係の講座・イベントを受講(参加)するようになりました。又、特別な山歩きをする人と縁があり、これまでの自分からは想像すら出来なかった体験をして、この頃からより 別子銅山(鉾山)へのめり込んで行きました。

平成29年度から悠游ワーカーになったからと言われ、スタッフ⇒推進員⇒スタッフとして、何となく違和感を感じながらも3年間学習大学のお手伝いをしていたのですが、令和2年度の講座企画を立案の時に関所長からスタッフへの依頼があったので、ならばと事務局の方のご協力も得、自分の希望に沿った内容での講師へお願いにも行き、快く引き受けて頂き企画の提案をし、講座の開催が確定しました。想定した以上の方々のご応募を頂きながらコロナの影響で開講が危ぶまれましたが 関所長の強い意志で、9月より企画時に自分が携わった講座は全て実施できるようになりました。

コロナ禍とは言えスタッフの不手際で受講者の方々にはご迷惑をおかけした事も有りますが、少しでも「受講して良かった、又次も受講したいな」と思って頂ければ嬉しいです。ご指摘頂いた事項、ああすれば良かった等感じた事項を踏まえ、令和3年度の講座でもう一度企画挑戦したいと思っております。振り返ってみれば私も後期高齢者への手前まで来ていました。自分のモットーである“自分の目で見て判断(決定)する” が出来の間は現地へも赴き、生涯学習大学に捉われずもう少し学習して行きたいと思えます。